

いのちの尊さ、生き合うことの尊さを知る心を育てよう。



浄土真宗本願寺派
鹿児島教区保育連盟

人が育つということは、心が育つということです。

私たちは、科学の力によって多くの願いを実現し、生活をより快適なものへと変えてきました。そして、自分の目に見えたり、ふれたりすることの出来ない物は非科学的な物として否定することが、人間としての理性的・知性的な生き方であるという考え方が共通の理解とされてきました。

ところが、自分に分からないことはすべて否定できるかという、必ずしもそうは言い得ません。例えば、地球は一日に一回転していますが、果たして私たちはそのことを実感することが出来るでしょうか。おそらく、だれかに教えられなければ地球が回転していると知ることさえ難しいと思います。

けれども、私に分かって分からなくても、地球はこれまでも、そしてこれからも回り続けます。このように、私の目に見えたり実感できなくても、確かにある事実を人々は昔から「お陰さま」という言葉で頷いてきました。



私たちの心を癒し和ませてくれる美しい花は、突然咲いたものではありません。よく知られているように、土・水・光などの自然の恵みがあったのです。

この陰のはたらきを、花を見て直ちに知ることは難しいものですが、そのことを教え聞かされることによって知ることは出来ます。それは、心の中に「お陰さまが見える眼」を持つことが出来るようになるということです。

「人間が育つ」ということは、「心が育つ」ということですが、それは、私のこのいのちが「生かされているいのちであること」に目覚めると同時に、「すべてのいのちを敬い愛する心が育つこと」に他なりません。

人間としての基礎が培われる大切な乳幼児期に、真の意味での人間を育むことを願う宗教的情操教育(まことの保育)と出会われましたことを、心からお慶び申し上げます。

保育連盟とは

保育連盟とは、浄土真宗本願寺派の寺院あるいは、ご縁のある保育園(600余)・幼稚園(400余)が「まことの保育」の推進を願って結集した全国的な教化組織です。

現在、鹿児島県内では90(保育園68・幼稚園22)の園が加盟し、園長および各種職員の研修会や保育セミナーを催したり、入園時に保護者の方に差し上げるパンフレットの作成などの他、ホームページを公開して「まことの保育」の広報活動を行っています。

【ホームページアドレス】
<http://www.minc.ne.jp/~hoiku>

みほとけさまをおがみます。

仏さまに手を合わせて園の一日が始まり、仏さまに手を合わせて一日が終わります。子どもたちも保育者も、互いに向かい合って生活を送ることは大切なことですが、もっと大切なことは、私たちに導いてくださる仏さまへ、尊い一つの方向へ、みんなが手を合わせ、耳を傾けるという生活です。



いつもありがとうといいます。

「ありがとう」「すみません」。素直で、とても美しい言葉です。園では、動植物を育てたり、自然とのふれあいを大切にします。そのふれあいの中で、「いのち」の尊さを学び、私を支える多くのいのちに素直に「ありがとう」と言える感謝の心を育てます。



みんながよくいたします。

幼稚園・保育園は、子どもたちが初めてかかわる小さな社会です。園では、たくさんのお友だちとなかよく生活するための様々なルールもあります。お互いに助け合う心、支えあう心、思いやる心を育てましょう。



お話をよくききます。

絵をかいたり、工作をしたり、おゆうぎやゲームをしたり、園生活の中で、子どもたちの創造心と探求心はぐんぐん育まれていきます。そしてその中で大切なことは、お話を素直によく聞くということです。よく聞くということは、物事をよく理解するということにつながるからです。



ご家庭でのお食事の時、みんないっしょに「食前・食後のことば」を!!

食前のことば

みほとけと

皆さまのおかげにより

このごちそうをめぐまれました。

(みんなで)

ふかくご恩をよろこび

ありがたくいただきます。



食後のことば

とととい おめぐみにより

おいしくいただきました。

(みんな)

おかげでごちそうさまでした。